

館名	河内公民館（尾道市）		
事業名	公民館商店街		
趣旨	地域づくりをする上で、若者の定着や帰郷が不可欠であると考え。故に、わが地域が彼らを必要としている事を訴え、若者も地域の良さに気付く事で地域への愛着心を高める。		
特徴	○開かれた公民館のアピールにも繋がり、若年層の公民館利用促進もねらう。 ○地域貢献活動を通して、自己肯定感、自己有用感、達成感が育まれることにより、地域の愛着心の向上を期待する。 ○実際に金銭の授受をするため、子供が仕入れから販売といった一連の経済の流れが体験できる。		
事業の様子			
	【事業説明】 御調西小6年生に依頼。館長が学校で説明を行った。	【ちらし作り】 「公民館祭り」のちらしを御調西小の6年生が作成した。	
			
	【公民館祭り】 小中高生が当日の企画と運営に参画した。	【公民館商店街】 小学生が中心となってお店を運営。保護者や地域の方に販売を行った。	
活動実績	1. 実施体制 河内公民館が事務局となり、小学生が〇〇屋さんを営み商店街を形成した。保護者が、それぞれのお店屋さんの講師として助言や手助けを行い、小学生が中心となって、他の保護者や地域の方に販売を行った。 2. 事業内容 (1) 公民館まつりのチラシデザインと当日の企画運営・・・御調西小6年生にチラシのデザインを依頼し3種類のデザインを考えた。そのチラシを基に、4年生以上と中高生にも呼び掛け、参加の子供たちが当日の企画と運営を担当した。（5月から6月末）		

活動実績	(2) 公民館商店街の出店者の募集。・・・公民館まつりの運営に関わってくれた児童生徒を中心に募集を呼び掛けた。当初中学生は、14名(2グループ)が希望していた。高校生の希望者は無かった。(7月から)また、開催日については、他の行事が入り変更をやむをえずすることとなった。 (3) 高校生の参加者を確保する為、急遽、「夏休み期間中の学習支援ボランティア」を募り、3名の参加者があったが、公民館商店街の参加には繋がらなかった。日頃繋がりの少ない中高生との繋がりを深め継続する目的で実施した。中学生の2グループの核となる生徒4名は、学習支援ボランティアに参加してくれた。 (4) 中学生の参加の取止め・・・11月初旬頃、中学生から、「参加しない」との連絡があり、急遽、児童で営む公民館商店街へ変更した。保護者を講師として、お店ごとに学習会形式とする事で実施できる方法にトライしつつ中学生の説得に当たったが、参加はなかった。 (5) 公民館商店街の実施・・・出店者ごとにお店を考え、運営方法など各講師を中心に学習し店の内容を決定。その為に必要なことなども講師を中心に各出店者内で学習した。材料費をお店ごとに負担してもらう事として実施した。約束事として、赤字にならない様にする事。また、赤字が出てもそれに対する補填をしない。という約束で実施した。出店数、5店舗。お店に携わった人数は当日15人、来客数、約150名であった。
成果と課題	【成果】 ○開かれた公民館アピールが出来た。 ○児童の主体的な学びが出来たことにより、失敗と成功を経験する事で自己有用感や自己肯定感が育まれた。 ○来客者は、地区内外問わず来られたので、顔見知りではない人ともコミュニケーションをとる必要があり、出店者と来客者、また来客者同士のコミュニティの場となった。 ○各出店単位で保護者を講師とした学習(学び)の場とする事で、家庭内で話合いの場が生まれるとともに、家庭内で学習(学び)の機会が増えた。 ○目的や目標を同じくすることで、出店者同士の連携が生まれ会話が発生し、コミュニケーションの場となった。 【課題】 ○中高生の参加や関わりがなかった事の原因として、高校生と公民館との繋がりが薄いことが挙げられる。中学生については、うまく誘導が出来なかった事が反省として挙げられる。
連絡先	河内公民館 〒722-0343 広島県尾道市御調町丸河南 90-1 電話:0848-76-1981 E-mail: kawachi.kominkan@arrow.ocn.ne.jp